

心のバリアフリー・コロナに係るアンケート結果について

○心のバリアフリー関連（※いただいた原文のまま記載しています。）

団体名	1. 自肅期間中外出する際に困ったこと	2. 対処法	3. 良いと思った事例	4. 啓発活動等の取組	4. その他
NPO法人高次脳機能障害サポートネットひろしま	電車が事故のため来なくなったが、どうしてよいのかわからず、駅で待ち続けている。駅でのアナウンスがあっても、聞き取って理解することが難しい。	本人に電話をかけて、家に帰る方法があるのか聞く。歩いて帰れる状態であれば帰る指示を出す。	-	家族の体験談を作成して、いろいろな相談窓口へ配布している。生活の中で起こる問題が実体験で語られている。	<p>身体に障害を持っている人と、まったく外見で分からない人がいるため、一言で問題点が言えない。声を掛けて理解できる人もいれば、そうでない人もいる。自分の困った状態がきちんと伝えられない人もいる。まずは社会の人が高次脳機能障害がどんなものなのかを理解することから始めないと難しい。脳の障害の人はたくさんいる。高齢者も脳がだんだんと衰えているので、同じようなことが起こるだろう。まずは障害を理解してほしい。</p>
公益財団法人広島県老人クラブ連合会	-	-	-	-	<p>広島県では、数年前から外見からは配慮や援助を必要としていることが分からない方へのスムーズな援助をサポートするツールとして、東京都が作成した「ヘルプマーク」の普及促進に取り組まれている。</p> <p>最近、カバンなどにこのストラップを付けている方を見かけるようにはなってきたが、バスなどの座席に座ったままだとストラップに気づきにくいといったことがあり、せっかくの制度も十分に活かさないという隘路がある。</p> <p>制度自体の普及はもとより、ストラップの仕様や効果的な活用方法についても更なる工夫の余地はないであろうか。</p> 

○心のバリアフリー関連（※いただいた原文のまま記載しています。）

団体名	1. 自粛期間中外出する際に困ったこと	2. 対処法	3. 良いと思った事例	4. 啓発活動等の取組	4. その他
<p>一般社団法人広島 県ろうあ連盟</p>	<p>①急にJR電車が止まった時の説明アナウンスはスピーカーを通して声だけなので聴覚障害者には伝わらない。何が起こったのか理解出来ないので不安な状態におかれる。 ②乗換えホームなどの情報は、声のアナウンスだけなのでわからず(乗換え等)判断が出来ないので不安な状態におかれる。 ③聴覚障害(聞え無い障害)は、外見上わからない障害なので、障害に気付かれなく心のバリアフリー推進を行うことが困難に思う。</p>	<p>①JR電車が止まった時、理由がわからないが、我慢しているか、発声が明瞭な聴覚障害者は声で車掌、駅員に聞く、分掌の得意な聴覚障害者は文字(筆談)で近くの人、駅員、車掌に聞く。 ②JRが止まった時、人の流れが起こり、その列の後ろ当たりについて行く事で、行動の判断をする。しかし、判断が遅くなり間に合わない。</p>	<p>a.JR電車の事故などで遅れる、止まる等は、大きな駅の待合室におかれるTVが文字放送に切り替えられている。これは聴覚障害者に助かる。 b.高速道路に設置してある緊急連絡の電話が、聴覚障害者にも使えるようになったこと。 c.少しづつだが、JR踏切で警音器だけから点滅器、遮断機がついた物へ変えられていること。 d.駅で切符等を買うとき「筆談をお願い」にこころよく応じてもらえるようになっていること。切符代金を電卓で伝えてくれるようになった事。「有り難う」を手話で表現されるようになっている事。</p>	<p>ローカル駅で、電車が止まった時、電光文字盤(上下の2列で発車時刻表示)の下段に例えば「人身事故で15分遅れます」と流してくれるようお願いした。 ローカル駅なので、2人勤務の時なら、そのようにします、という返事で、そのようにしていただいている。</p>	<p>お願いごとですが 聴覚障害者の障害は①コミュニケーションと②情報障害の2つです。声が聞えないので①筆談＝文字に書いて対応する、しかし手話言語を使う聴覚障害者もいるので、手話言語の理解、取得に取り組んで頂ければと思う。 一律「書けば良い」と言うことでないことも理解を深めてほしい。 聴覚障害は外見上分からない障害なので、それを気づく方法やコミュニケーションの方法等の取組をまず職員の方で実施してほしい。初任研修等で聴覚障害の理解パンフ(ろう連にあります)や、使用する言葉の手話言語講座の導入もお願いしたいものです。 質問ですが 新幹線客車の前後につけてある文字掲示板はなるのですか?これは、聴覚障害者には大切なものです。</p>

○心のバリアフリー関連（※いただいた原文のまま記載しています。）

団体名	1. 自肅期間中外出する際に困ったこと	2. 対処法	3. 良いと思った事例	4. 啓発活動等の取組	4. その他
<p>一般社団法人広島県身体障害者団体連合会</p>	<p>A、単位集落において、講中（常会、組合など）の地域活動組織で難聴の障害者が組織の会計事務の役を担っていましたが、決算報告において質問をされましたが質問の内容が良く聞き取れず違った意味の回答をしたため質問者から「あなたは耳が悪いけー会計事務を辞めたらどうか」との発言があり、気分を壊しながら「はい、わかりました次の担当者を決めてください引継ぎをしますので。」と少し陰険な状況になりました。 B、発達障害者の障害の状況が何が障害なのか？理解していないため対処の仕方が解らない為無視してしまう。</p>	<p>A、他の役員の方で自身が難聴の子育ての経験から「よく聞き取れなかったと思う、ゆっくり発言してもらえば解ると思う、こちらで対処しますから。」と取り持ってくれました。 B、発達障害者そのものがよく理解できていないため、困っている事に対して対処の仕方が解らない。</p>	<p>公共施設等において障害者に対する対処等の思いやりがなかった、交通バリアフリーは都市部においては大変良くなったと思います。 公共施設、金融機関等におけるコミュニケーションバリアフリー化も進んでいる。出来れば民間病院等で設置費用の比較的安価な金融機関での番号受付発行による文字表示による呼び出し対応がもっと普及すればよいと思う。</p>	<p>三次市身体障害者団体連合会の啓発活動障害者、健常者を問わず、お互いを正しく理解するため誰もがはり易い漫画読本を通して理解するための『ヤンキー君と白杖ガール』（株）KADOKAWAの頒布。 学校教育への障害を正しく理解してもらうためのボランティア講師受入。 広島県身体障害者団体連合会の障害者相談員研修会「心のバリアフリーを理解する」ワークショップの取り組みのため、障害者、地方行政関係者、地域福祉関係団体を取り込むための、模擬ワークショップ研修開催。 残念ながら新型コロナウイルス感染拡大によりここ2年間事業を中止平成4年度は実施したい。</p>	<p>—</p>

○心のバリアフリー関連（※いただいた原文のまま記載しています。）

団体名	1. 自粛期間中外出する際に困ったこと	2. 対処法	3. 良いと思った事例	4. 啓発活動等の取組	4. その他
社会福祉法人広島県肢体障害者連合会	—	—	—	毎年近隣の小学校からの社会見学を引き受けているが（3年生100名前後）、その時に障害についての話をして理解を深めてもらう啓発をしており、とても有意義だと思っているが、コロナの為2年間実施できていないため残念。	—
公益社団法人全国脊髄損傷者連合会 広島県支部	<p>① コロナ禍の中で手指消毒のため用意されているアルコール消毒液等について、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 溶液抽出が足踏み式になっていて使えない ・ 溶液ボトルの設置台が邪魔でエレベータのボタンを押せない ・ 握り式スプレーのため使いづらい ・ 溶液が「次亜塩素酸水」になっている <p>② スーパーの袋詰め台周りが密になる</p> <p>③ スーパー等にある身体障害者用駐車スペースが身体障害者ドライバー以外の方に占有されていて使えない（高齢者ドライバー、高齢者を送迎する方、ベビーカーを利用する方などが占有）</p>	<p>① 手指消毒液を使わないこともある</p> <p>② レジから台まで運んでもらう際にできるだけ空いているところを指定させてもらう</p> <p>③ 雨天時は、当該スペースが空くまで邪魔にならないところで待機、天候に不安がなければ、車椅子の乗降スペースが確保できる最端のスペースを探す</p>	<p>① 別途、手動式の手指消毒液ボトルを用意してくれた（握り式だった）</p> <p>② スーパーで買ったものを袋詰めしている時、店員が声かけして袋詰めを手伝ってくれたり、時には高齢者が声かけしてくださり、袋詰めを手伝ってくださることもある</p> <p>③ イオンモール広島府中店で身体障害者用駐車スペースのゲートを車両ナンバー読み取り式への変更の際に身体障害者と要介護者の確認と車両登録制にしたためか、空き率が高くなったように感じる、できるなら身体障害者の等級を1～3級（4級以上は車椅子常用者ではないはず、また歩行困難者でもないはず）に限定して欲しい</p>	<p>・ 会報等を通じて、会員へ恐怖を煽る報道等に惑わされないように、踊らされないように、生活・健康情報を初めとした様々な情報を伝えている</p>	<p>全ては情報を詳らかにすることから始まります。例えば「課題」については、全てをリストに並べて、「検討中」や「採用・不採用」などのステータスや採用・不採用の理由、見積費用（実績も含む）なども公開情報とすることで、要らぬ批判を招くこともなく、検討済み課題に無駄に汗することもなくなります。これらを日本全国で共有できれば、様々なことがスムーズに進むと思います。ご検討ください。</p>

○心のバリアフリー関連（※いただいた原文のまま記載しています。）

団体名	1. 自肅期間中外出する際に困ったこと	2. 対処法	3. 良いと思った事例	4. 啓発活動等の取組	4. その他
<p>特定非営利活動法人障害者生活支援センター・てごーす</p>	<p>心のバリアフリーとは個々の価値観によって違うので一言では難しいが、駅員や運転手からの声かけが障害当事者ではなく、介助者に声をかけるということを実感する。</p>	<p>その際は、「障害当事者に聞いて」と促すと同時に、「合理的配慮の提供ですよ」と言う。</p>	<p>行きつけのコンビニやスーパー等で行動を覚えてくださり、自動ドアではない手動式のドアをいち早く開けたり、次の行動を読んで手伝ってくれたこと。</p>	<p>コロナ禍により、啓発活動等は行っていない。</p>	<p>心のバリアフリーというのは、共に教育を受け、共に育ち、施設や親元ではなく地域で暮らすことにより、自然と根付いてくるものだと思う。</p>

〇コロナ関連（※いただいた原文のまま記載しています。）

団体名	1. 長期化・拡大により困ったこと	2. 対処法	3. 初期に感じた問題が解決された事例	4. その他
NPO法人高次脳機能障害サポートネットワークひろしま	マスクをして出かけるように言っても、忘れて平気でそのまま電車に持ってしまふ。	分かればその都度声掛けをする。予備を携帯させておく。	-	-
公益財団法人広島県老人クラブ連合会	重症化リスクの高い高齢者への感染防止を徹底する一方で、全て集まることから始まるのが老人クラブ活動であり、集まる場所や機会が制限されることによっては、会員相互や地域社会とのつながりが希薄になり、閉じこもりや孤立、うつや認知症発生などのリスクが高まっていくことが懸念される。	市町老人クラブ連合会や単位老人クラブでは、交流機会を減らさないよう、感染防止対策を講じながら、小規模単位で複数回に分けて活動したり、地元の小学校と初めてリモートによる交流会を開いたりするなどの工夫を行っている。 現在、全国組織において、こうしたコロナ禍での活動を事例集として取りまとめる作業が行われている。	感染者の発生が少なかった時期は、感染者やその家族を犯人扱いするような風潮があり、感染症状があっても周囲に隠すケースが見られたが、最近では、誰が感染してもおかしくない状況となり、蔑視する風潮も以前ほどではなくなった。 今後は、ワクチン接種を希望しなかった人（何らかの理由で接種できなかった人）が感染した場合、周りから差別的な扱いを受けることになりはしないかという心配がある。	-
一般社団法人広島県ろうあ連盟	私たちの移動の手段は、自家用車、自転車、徒歩を優先して公共機関の利用はできるだけ控えている現状。公共機関はコロナのため、職員や乗客はマスクをしている。マスクをすると聴覚障害者がコミュニケーション上の読話が困難になり、意思疎通が全くできなくなる。	マスクをしての一般の方とのコミュニケーション＝どうしようもない。 手話通訳養成講座（＝広島県担当）、手話奉仕員養成講座（＝市町担当）では、講師、受講者とも透明マスクを着用。 手話通訳者＝透明マスク着用	ろう者同士のコミュニケーション＝オンラインの使用 コロナ関係病院でのろう者のコミュニケーション＝スマホを利用した遠隔通訳	-
一般社団法人広島県身体障害者団体連合会	難聴者は発声と口の動きとを合わせて聞き取りを理化するため、マスクにより発言者の聞き取りが困難でした、ろうあ者においても口の動きと手話と合わせて理解するため同様でした。 視覚障害者等介護ヘルパーが必要な障害所もヘルパーの依頼が感染の危険性から戸惑った。 腎臓疾患などの障害者で、抵抗力の問題から感染即生命の危険から外出が不自由。	筆談をお願いした。 出来るだけ外出を控えた。 外出を控え会合とうを避けた。	-	-

○コロナ関連（※いただいた原文のまま記載しています。）

団体名	1. 長期化・拡大により困ったこと	2. 対処法	3. 初期に感じた問題が解決された事例	4. その他
社会福祉法人広島県肢体障害者連合会	—	—	—	<p>コロナが恐ろしく電車やバスをなるべく使いたく無いため、介護タクシーを使いたいと言う利用者が増えたのだが、広島市であれば「障害者公共交通機関利用助成（いきいき乗車券）」という制度がありタクシーチケットを頂いておけば活用できるが、市町村により制度があつたり無かつたりする。コロナ禍では臨時にでも発行してもらえれば皆助かる。 妊婦さんの病院受診時等も同様だと思う。</p>
公益社団法人全国脊髄損傷者連合会 広島県支部	① 体力維持のために利用していた運動施設が休館になっている	① 代替手段は無く、車椅子を漕ぐ距離を少し増やしたり、短時間でも日光浴をしている	ア. 障害者等の施設での感染報告が少なくなり、恐怖を煽る報道が少なくなったように感じる	<p>コロナ禍で皆が気づいたように、介助を受ける側も介助する側もお互いに感染させる・するリスクが高い。移動という観点からは、介助が不要な『アクセス・フリー』であれば、お互いの感染リスクは低くなるはずですが。</p>
特定非営利活動法人障害者生活支援センター・てごーす	早くワクチンを打てるかどうか、県や市に問い合わせているが、未だに返答がない。	問い合わせを重ねている。	移動支援を使っている利用者のキャンセルが続き、経営が成り立たないという事業所の声を聞く。	<p>ワクチンを打てば本当にコロナ禍前の生活を送れるのか不安であり、またワクチン接種をしたくない人とワクチン接種を勧める人との格差が心配である。</p>

○心のバリアフリー、コロナ関連（※いただいた原文のまま記載しています。）

団体名	心のバリアフリー関連		コロナ関連		
	1. 心のバリアフリーについての取組事例、啓発活動等の取組等	2. その他	1. 長期化・拡大による問題	2. 対処法	3. 初期に感じた問題が解決された事例
西日本旅客鉄道株式会社 広島支社	<p>・すべての駅係員に対し、各駅の状況に応じた介助が出来るよう、各職場での集合研修や勉強会を年1回以上開催し、介助技術ならびにお客様とのコミュニケーション向上を図っています。</p> <p>※サービス介助士資格取得状況(広島支社) 令和2年度実績 59名取得 令和3年度 76名取得予定</p>	-	-	-	エレベーターボタン等に抗ウイルス・抗菌材の噴霧加工や抗ウイルス・抗菌性能を有したシートを貼付け、抗菌加工した箇所にピクトグラムを貼付けたことにより、安心してご利用いただけることになりました。
広島国際空港株式会社	<p>・案内所(出発ロビー、国内到着ロビー、国際到着ロビー)スタッフは、障害者への積極的なフォローをするように教育を実施</p> <p>・多機能トイレ内に、車いす使用者、オストメイト、乳幼児連れ、高齢者が優先的に使用する施設であることを知らせるポスターを掲出。</p> <p>・エレベーターホールに、車いす使用者、高齢者等の優先利用を促すポスターを掲出。</p>	-	<p>(1) 案内所カウンターにおいて、飛沫対策用のアクリル板を設置したが、声が聞き取りづらくなった。</p> <p>(2) ターミナルビル内で、お困りの方にお声がけがしづらくなった。</p>	<p>(1) 集音マイクを設置。</p> <p>(2) 離れて会話している。</p>	<p>・マスクや手指消毒用の消毒液の確保が容易になったこと。</p> <p>・マスクの着用や各種施設内へ入る際の体温測定が定着したこと。</p> <p>・トイレの非接触化や飛沫対策のアクリル板の設置など感染症対策が一気に進んだこと。</p>
中国ハイヤー・タクシー連合会	<p>ハード面 UDタクシーの導入整備の推進</p> <p>ソフト面 高齢者・障害者等の特性を理解し接客向上のためのUD研修を継続的に行っている。</p>	-	-	-	-
一般社団法人 中国旅客船協会	<p>広島港総合案内所を設置し、英語通訳専門スタッフの配置や開所時間の延長等の案内機能強化を図るとともに、積極的な窓口対応によりアクセシビリティが向上し、案内件数も飛躍的に増加した。</p>	-	<p>政府や自治体の緊急事態宣言や県を跨ぐ移動の自粛要請等により、運休・減便の変更が度重なり、情報発信を行っているが利用者に伝わりにくい。</p>	<p>各社ホームページやターミナルに掲示し、広島港や広島駅等の総合案内所へ情報提供をし、案内をお願いしている。</p>	<p>非接触キャッシュレス自動券売機の設置。(宇品港他11台) 切符販売窓口における対面販売から非接触の自動券売機の利用促進により、コロナ感染リスクの低減を図っている。</p>

○心のバリアフリー、コロナ関連（いただいた原文のまま記載しています。）

団体名	心のバリアフリー関連		コロナ関連			
	1. 心のバリアフリーについての取組事例、啓発活動等の取組等	2. その他	1. 長期化・拡大による問題	2. 対処法	3. 初期に感じた問題が解決された事例	
中国バス協会	<p>【広島県バス協会】 バスの障がい者割引による乗車時における本人確認について、障がい者手帳を提示することなくスマートフォンのアプリで確認できる「ミライロID」を、会員乗合バス事業者及び県内コミュニティバス運行市町へ周知し導入促進を図った。 現在、県内乗合事業者18社において導入決定した。コミュニティバスについても1市で導入決定し、1市で導入に向けて検討している。</p> <p>【山口県バス協会】 改正されたバリアフリー法の施行により、公共交通事業者はこれまでのハード対策に加え、障害者に対する介助等の支援や必要な情報の提供、職員に対する教育訓練等のソフト対策についても取組むことが求められ、その周知を図った。 ・山口県からの要請で、提供されたヘルプマーク周知のチラシとステッカーを乗合バス事業者に配布した。 ・地元テレビ局の情報番組に専務理事が出演して、ヘルプマークの周知とバス協会・バス事業者の取組を紹介した。</p>	—	<p>路線バスについては、新型コロナウイルス感染症の拡大により利用者が大きく落ちているがエッセンシャルワーカーとして最小限の減便で運行している。 高速バスについては移動自粛により休止・減便が増えている。 乗合バス・貸切バスにおいて新型コロナウイルス感染症の長期化・拡大により、収益が大幅に下がり経営が困難な状況となっており、バリアフリー対応の車両への更新が困難な状況となっている。 広島県では空港リムジンバスにリフトバスを導入しようとしたが取りやめた例が発生した。</p> <p>【山口県バス協会】 地方において路線バスの利用で多いのが学生と高齢者である。学生は一斉休校が終わって戻ってきたが、通院や買い物などで使っていた高齢者が、感染を恐れてバスからタクシーや自家用車など別の交通手段に変えている人も多く需要が戻ってきていない。障がい者においても持病を持っている方が多く外出を控えている方が増えている。 ノンステップバスの導入を推進して導入率76%は全国第6位とハード面での整備は進んでいるが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で需要が戻らないという寂しい状況となっている。</p>	<p>各県及び中国バス協会において、バス事業者への支援について関係各所へ要請活動を実施した。</p> <p>【山口県バス協会】 新型コロナウイルス感染症対策への事業者の取組やバス車両の換気性能や安全性について知ってもらうポスターやフリーで利用できる動画を加工してDVDを作成してバス事業者に配布して、バス車内に掲載や貸切バス車内で放映などを行っている。 また、独自動画を作成して、YouTubeから配信し、協会ホームページや県のホームページにアップして周知を図っている。 中国運輸局山口運輸支局や山口県に対して、新型コロナウイルス感染症対策への事業者の取組やバス車両の換気性能や安全性について国民に対して周知を行ってほしいと、協会会長・副会長・専務理事等で直接伺って要望活動を行った。</p> <p>【鳥取県バス協会】 新型コロナウイルス感染拡大に伴う移動自粛要請などで、旅行者のキャンセルや各種イベントの中止などの影響で、これまで経営基盤を牽引してきた高速バスや貸切バスの営業収入も改善しないまま、更なる経営悪化が見込まれることから、県内の路線バス事業者は、4月16日、鳥取県知事に対し地元公共交通バス事業者への支援を要請した。</p>	—	—

○心のバリアフリー、コロナ関連（いただいた原文のまま記載しています。）

団体名	心のバリアフリー関連		コロナ関連		
	1. 心のバリアフリーについての取組事例、啓発活動等の取組等	2. その他	1. 長期化・拡大による問題	対処法	3. 初期に感じた問題が解決された事例
島根県 障がい福祉課	<p>・様々な障がいの特性や障がいのある方が困っておられることや必要な配慮を理解し、日常生活でちょっとした配慮を実践し、誰もが暮らしやすい地域社会をつくっていく「あいサポート運動」を推進しています（鳥取県と共同実施）。</p> <p>県民が様々な障がいの特性や必要な配慮を学ぶ「あいサポーター研修」の受講者は累計で約5万4千人（H23年度～令和2年度）となっているほか、取り組みを行っていただける「あいサポート企業・団体」や「あいサポートメッセンジャー」の登録を進めています。</p> <p>・内部障がい、難病、妊娠初期など、援助や配慮が必要な方のための「ヘルプマーク」「ヘルプカード」の普及を進めており、これまでに累計で3千個をお渡ししています。（平成29年度～令和2年度）</p>	—	—	—	—
広島県	<p>平成23年度から、鳥取県の創設した「あいサポート運動」に賛同し、広島県においても、「あいサポートプロジェクト」として、「あいサポート運動推進事業（人材育成）」及び「障害者文化芸術推進事業」を実施しています。</p> <p>具体的には、人材育成については、あいサポート運動の趣旨を広く普及するため、県内の学校や企業・団体に対して、「あいサポート運動に係る出前講座」を実施しているほか、人材育成の研修を行うことにより、あいサポート運動を中心的に担う推進役となる「あいサポートメッセンジャー」等の養成を行っています。</p> <p>障害者文化芸術推進事業については、平成24年度以降毎年、障害者が創作した芸術作品を展示する「あいサポートアート展」を開催するとともに、平成29年度から、音楽、ダンス等の舞台芸術を発表する「あいサポートふれあいコンサート」を開催しています。</p> <p>これらのあいサポート運動を当事者団体等の協力を得ながら推進し、将来を担う子供や若者から高齢者までほぼすべての年齢層において、障害の特性や必要な配慮への理解を深め、障害のある人に対して理解のある行動につながるよう県民オール「あいサポーター」の構築に向けて取り組んでいます。</p>				

○心のバリアフリー、コロナ関連（いただいた原文のまま記載しています。）

団体名	心のバリアフリー関連		コロナ関連		
	1. 心のバリアフリーについての取組事例、啓発活動等の取組等	2. その他	1. 長期化・拡大による問題	対処法	3. 初期に感じた問題が解決された事例
広島市	<p>【健康福祉局健康福祉企画課】 バリアフリーをソフト面から推進するため、「福祉のまちづくり読本『人がやさしいまち ひろしま』」の配布や「福祉のまちづくり啓発DVD」の貸出し等により、福祉のまちづくりの理念、高齢者及び障害者等の特性や手助け方法等を市民及び職員に普及し、人にやさしい市民意識の醸成に努めています。</p> <p>【健康福祉局障害福祉部障害福祉課】 令和3年度から、広島市障害者差別解消推進条例に基づき、障害を理由とする差別の解消の推進に積極的に取り組んでいる、または取り組もうとしている事業者を広く募集・登録する、「事業者登録・表彰制度」を実施する予定です。 その中で、事業者が心のバリアフリーに取り組んでいることを要件に盛り込んでいます。</p>	-	-	-	-
岡山県	<p>心のバリアフリーの実現に向けて、障害のある人への差別を行わないよう徹底するための環境を整備する事業や、障害のある人への理解を深める研修等を行う普及啓発事業等を実施している。</p> <p>(1) 環境整備事業 ○相談窓口の設置 ・専門相談員を配置し、差別的取扱いや合理的配慮の提供に関する県民や事業者等からの相談に対応 ○合理的配慮対策事業 ・セミナーや説明会における手話通訳者、要約筆記者等の配備</p> <p>(2) 普及啓発事業 ○あいサポート推進事業 ・あいサポーターの養成（あいサポーター研修等の実施） ・あいサポート企業・団体の認定（あいサポート運動：県民が障害の多様な特性の理解に努め、障害のある人にちょっとした手助けを行うことにより共生社会を目指す運動） ○心のバリアフリー支援事業 ・街頭での「障害者週間」啓発活動（啓発資材配布） ・心のバリアフリー啓発冊子「バリアフリー社会のおもいやり」作成 ・「障害者週間」啓発の一環として、「心の輪を広げる体験作文」及び「障害者週間のポスター」の募集・審査・内閣府への推薦 ・障害のある人への理解を深めるための講演要望があった際の講師派遣</p>	-	-	-	-

○心のバリアフリー、コロナ関連（いただいた原文のまま記載しています。）

団体名	心のバリアフリー関連		コロナ関連		
	1. 心のバリアフリーについての取組事例、啓発活動等の取組等	2. その他	1. 長期化・拡大による問題	対処法	3. 初期に感じた問題が解決された事例
山口県	<p>・障害のある人がいきいきと活躍できる地域社会（共生社会）の実現を図るため、誰もが障害に対する理解を深め、配慮を実践する「あいサポート運動」（※以下参照）を推進している。</p> <p>【具体的な事業内容】 あいサポーター研修の実施／あいサポートメッセンジャー（あいサポーター研修の講師を務めるなど運動の推進役を担う者）の養成／あいサポート運動の普及啓発／若年層を対象とした協働イベント実施／あいサポート企業・団体の認定</p> <p>※「あいサポート運動」の概要 ○あいサポート運動とは ・誰もが、様々な障害の特性、障害のある方が困っていること、障害のある方への必要な配慮などを理解して、障害のある方に対してちょっとした手助けや配慮を実践し、誰もが暮らしやすい地域社会（共生社会）を作っていく運動 ・この運動を実践する方を「あいサポーター」という ○あいサポーターになるためには ・日常生活において障害のある方が困っている時などに、ちょっとした手助けをする意欲がある方であれば、以下により、あいサポート運動の説明等を受ければ、誰でもなることができる（特別な技術の習得は不要） ①各職場や地域・団体などが開催する「あいサポーター研修」を受ける ②各種講演会・イベント等で、あいサポート運動に関する説明等を受ける ○あいサポーターになると ・障害の主な特性や必要な配慮の内容をまとめたパンフレットと「あいサポートバッジ」を受け取り、以下の4つのことを実践する 1. まず、障害について理解すること 2. ちょっとした手助けや配慮をすること 3. あいサポートバッジをつけて声を掛けやすくすること 4. あいサポート運動の精神を広めていくこと</p> <p>【令和2年度実績】 ・あいサポーター研修を教育機関で計7回実施（高校:2, 専門学校:3, 小学校:2） ・あいサポート企業・団体に11企業・団体が認定（R2.12.24時点で計219企業・団体）</p>	-	-	-	-